



特定非営利活動法人

# アジア・アフリカと共に歩む会

南アフリカ共和国貧困地域への教育支援

## TAAAの活動日誌 2023年

- ・ 2023-10-02 [TAAA最後の視察訪問](#)
- ・ 2023-07-22 [Bhekizizwe\(ベキズイズウェ\)小での蔵書の整理](#)
- ・ 2023-05-27 [2023年12月TAAA解散予定のお知らせ](#)
- ・ 2023-05-03 [司書教師へのアンケート回答②](#)
- ・ 2023-04-01 [司書教師へのアンケート回答①](#)
- ・ 2023-02-18 [山奥の小学校 カカメラ小に本と本棚を届ける](#)
- ・ 2023-01-10 [「ぐりとぐら」そして「そらいろのたね」の現地語版製作作業](#)

2023-10-02 南アフリカ

### TAAA最後の視察訪問



バンギビーズ小コンテナ図書室



ベテラン司書教師のザマ先生  
音読を披露する生徒たち

9月中旬に、TAAAとしては最後の現地視察訪問をしてまいりました。

新型コロナ禍で一時中断を余儀なくされましたが、現地にはここ10年以上ほぼ毎年訪問していましたので、すこし淋しい気持ちを抱えながらの渡航でした。TAAAが今年度に解散することは、平林プロジェクトマネージャーがすでに教育関係者に伝えてくれていましたが、日本から訪問し、実際に先生方にお会いして終了の挨拶をすることも渡航目的の一つでした。

今回は最後ということもあり、現対象学区のドウエシューラ学区だけでなく、元対象学区であるムタルメ学区とトゥートン学区の学校も訪問し、ウグ郡で約12年間行ってきたTAAAの学校図書活動が全体的にどのように継続されているのかを確認してきました。

3学区の全ての元対象校には訪問できませんでしたが、訪問できた学校においては、ほとんどの図書室がしっかり利用されており、整理整頓も行き届いていました。

新型コロナ禍による学校閉鎖や地域全体のロックダウンというトンネルを越えても、生徒たちの「読みたい！」に応じて図書室を再開・継続してきた先生たちの頑張りが伝わり、現場の先生たちと日本の長年の支援者の方々を繋げてきたこともTAAの役割だったのだな、と幸せな気持ちになりました。

最初に訪問したバンビーズ小学校は、2016年春にコンテナ図書室を寄贈した学校です。

図書室設立当初から司書教師のザマ先生がしっかり運営し、図書室の壁に絵やポスターを貼り、魅力的な図書室作りに励んでらっしゃいました。この日、室内には「いじめ防止」と「女性への暴力反対」の手作りメッセージやポスターが貼られていました。私との再会を喜んでくれたザマ先生は、図書室はよく使われていることを説明すると同時に、これらのメッセージの意義をヒューマンリティの視点から力強く伝えてくれました。

いじめも女性への暴力も、人権問題、社会問題としてしっかり認識することや、第三者の目撃者も声を上げることの重要性がメッセージとして貼られていました。地域にこのような問題があることは分かりましたが、一方で、小学校の図書室を、読書や勉強だけでなく、身近な問題を人権や社会問題として子供のうちから考えさせる場としても機能させていることが、南アフリカらしくて素晴らしいな、と思いました。

ここ10数年間視察訪問をする度に、学校図書活動は、南アの文化や習慣、独特のアートセンスを取り入れて、良い意味で地元化してきていることを実感してきましたが、今回の訪問では、南アの人々の人権問題への解決意欲の高さを反映した図書室を拝見できました。



「いじめ撲滅」メッセージ



「女性の日」に向けた手作りメッセージ

(久我祐子)



Bhekizizwe小

ムタルメ・トゥートン学区での図書支援事業時の対象校へのアンケート調査で、久しぶりにBhekizizwe(ベキズイズウェ)小を訪問した。同校は2016年に在南ア日本大使館の草の根無償協力の助成をいただいて校舎（3教室）を建設し、一室を図書室とした。事業当時はとても活発に活動が行われ、事業終了後も教育省図書部門（ELITS）により多くの書籍が配備されたことから、図書活動はしっかりと継続されていた。しかし、2020年のコロナ禍の影響で活動が滞ってしまった時期もあり、また、ベテランの司書教師の退職により、新任の司書教師だけでは図書室の管理・運営が十分に進まなかったようである。

そこで今回、モンドリと蔵書の整理を行うことにした。当日は冬期休暇直前だったため、生徒たちも時間が取れるということで校長がクラスごとに呼びかけたところ、多くの生徒が自主的に参加してくれた。まず、生徒にデューイ十進法を説明し、すべての本を本棚から出して、カテゴリー別に山積みにした。その間に2人の生徒が本棚の埃を払い、きれいに水拭きした。そして本棚にデューイ十進法のステッカーを貼り、それぞれの棚に本を収めた。急いで仕分けしなければならない中で、どうしても興味が湧いて本を立ち読みしてしまう生徒も見られた。この作業は生徒たちが図書室の蔵書を把握するいい機会となったようだ。大勢の女子生徒に混ざり、たった一人“勇敢な”男子生徒が一生懸命力仕事をしてくれた。

司書教師には図書委員会の方針、図書室のルール、時間割等を決定し、今年度の生徒メンバーを選出するよう伝えた。近日中にモンドリが司書教師と生徒への研修を行う予定である。同校の図書室は、再び活発に利用されることになるだろう。

(TAAA南ア事務所 平林薫)

2023-05-27

## 2023年12月TAAA解散予定のお知らせ

会員、支援者の皆さまへ

日頃はTAAAの活動にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。

前号（80号）の会報でお伝えしました通り、2022年9月30日に国内の活動拠点である作業所が閉鎖されました。その後、TAAA理事会は、現地プロジェクトマネージャーを交えて今後の当会の方向性について話し合いを重ね、2023年12月31日に当会を解散することを検討することとなりました。



5月21日開催の会員総会で、この件を解散議案として会員の皆さまに審議していただいた結果、議決され、定款変更手続きを行うこととなりました。所轄庁より定款変更が認証されましたら、**2023年12月31日に特定非営利活動法人アジア・アフリカと共に歩む会（TAA）は解散いたします。**

当会は、1992年に任意団体として発足し、2013年に特定非営利活動法人になりました。31年という本当に長い期間、皆さまに支えられてきたお蔭で、合計49万冊以上の英語の本と約5千個の・教材・教具を南アフリカの貧困地域の学校に送ることができ、また現地で直接支援した学校だけでも100校を超えました。一方で、民主主義国家となり29年を経た南アフリカ共和国は、国として着実に変化を遂げてきました。

「アパルトヘイト後の南アの教育の立て直しを日本の市民も応援していきたい」という設立当初の目的は、多くの方々の多大なご協力のお蔭で、概ね達成できたのではと考えております。長年のご支援に感謝申し上げます。

**今年度の会費、ご寄付、英語の絵本、書き損じハガキ・切手につきましては、2023年8月31日を受付最終日とさせていただきます。**仕上げの年のご寄付は大変ありがたく、ご協力をお願いできれば幸いに存じます。

今年末までの残された期間、日本でも南アでも出来ること、やり残したことは精一杯取り組んでいきたいと思っております。引き続きご支援のほど、どうぞよろしくお願い致します。

(特活)アジア・アフリカと共に歩む会  
代表 久我祐子

Page Top ▲

2023-05-03

## 司書教師へのアンケート回答②



ナ二高図書委員会生徒たち



ムガムューレ高図書委員会メンバー選考

引き続き、2月に実施した司書教師へのアンケートの回答を紹介いたします。

- **2022年4月以降、生徒たちの図書室利用や図書活動にどのような変化がありましたか**良くなった点としては、ほとんどの学校が「生徒も教師も図書室に慣れてきてよく利用するようになった」と回答していました。問題・課題点としては、時間やスペースの制約を挙げている学校がありました。回答を一部紹介します。

### 良くなった点

- ・生徒たちは読書が好きになった。
- ・語彙が大幅に増え知識も増した。
- ・教師が図書室を訪れて、生徒のために本を選んで借りるようになった。
- ・生徒たちが図書室に慣れてきて、授業の補習に必要な情報を図書室から入手するようになった。
- ・図書委員会生徒が委員会活動をより責任を持って取り組むようになり、当番順をしっかり守るようになった。
- ・ストーリーテリングが上手になった。
- ・パソコンを使って宿題の回答をタイピングできるようになった。

### 問題・課題点

- ・図書室が小さすぎて、20人も入れない。もっと広いスペースが必要。
- ・司書教師が図書室にいられる時間が不十分。
- ・スペースが足りない。図書室が教室として使われるようになったため。
- ・時間の問題。 休み時間が短すぎる。
- ・授業中に図書室が使われていない。

#### ○ **パソコンの管理と利用**

パソコンは全12校で貴重品室などでしっかり保管されていることが分かりました。しかし、セキュリティに配慮するあまり、生徒たちが自由に利用できなくなっている学校も多く、この問題点について、3月にTAAAプロジェクトマネージャーはドウエシユーラ学区長と協議し、改善を求めました。

#### ○ **2023年度の計画**

多くの学校が、図書委員会活動や図書室利用を発展させていきたいと回答していました。

- ・図書室を利用する生徒を増やすために、新しい図書活動を行っていきたい。
- ・もっと読書活動を増やしていきたい。
- ・SGB(PTA)が図書室をサポートしてくれることを待っている。
- ・図書活動をよりよくするために、図書委員会活動の時間と委員会メンバー数を増やす。
- ・教師は、時間がある時は図書室を開けるようにする。

(終了)

(久我)



ウマルシ小学校図書室



図書室で本の読み聞かせをする司書教師

2022年3月31日に、外務省NGO連携無償資金協力（N連）によるドウエシューラ学区12校を対象とした図書事業が終了しましたが、一年経った現在、図書活動がどのように行われているのかを調査するため、2月中に司書教師を対象としたアンケートを実施しました。

多用ななか全12校から回答を頂くことができました。詳しい質問と回答は、後日一覧表にしてお見せしますが、ここでは要約と感想をお伝えしていきたいと思えます。

#### ○ 図書室の開設頻度

全12校が「毎日開いている」と答え、そのうちの多くが「一日中開いている」との回答でした。「休み時間だけ」と答えた学校は3校。そのうちの1校は、アシスタントのインターン生がいる時は一日中開いている、との答えでした。インターン生が司書アシスタントになっている学校があることが分かりました。

#### ○ 教師の図書室利用

全12校で教師たちが活発に図書室を利用していることが分かりました。小学校の教師たちは、授業の音読や副読本に図書を使ったり、授業中、生徒を図書室に連れて行ったりしています。読み書きが苦手な生徒を一人図書室に連れていき、落ち着いた雰囲気の中個別指導をする教師もいるそうです（プロジェクトマネージャーからの情報）。高校の教師は、授業の予習や副教材として積極的に図書を活用していることが分かりました。

#### ○ 州教育省その他の団体からのサポート

「この一年間、州教育省やT A A A以外の現地の団体からのサポートを受けたことがあるか」との質問には、9校が「受けたことがない」と答え、2校の高校が「州教育省から本を受け取った」、1校が「現地のセメント会社から図書室を贈呈された」と答えていました。州教育省からのサポートを受けていない学校が大多数であることは懸念されます。特に小中学校でサポートを受けた学校が一枚もないことは残念です。この件については、今後州教育省とも協議を重ねていきたいと思っています。

#### ○ 学校やP T Aからのサポート

9校が「ある」と答えました。図書室利用を生徒に促したり、図書活動に協力するサポートが多いようですが、図書室用の資金や、図書備品など物資の提供を受けている学校もありました。

#### ○ 「図書室があつてよかった！」と感じる時はいつ？

の質問には、図書イベントや読書フェスティバルなどの行事を答える回答が多かった



です。日本だと「図書室は静かに本を読む場所」のイメージがありますが、南アの学校で図書室を作ると、「静」だけでなく「動」も加わり、「同じ目的に向けて集うお祭りを大切にする現地の文化が、図書活動にも色濃く浸透してくるのだな」と興味深く拝読しました。

その他、「テスト期間中、生徒たちが図書室で調べものができる」「図書室にいくと副教材が見つかるので有難い」「音読用に色々なレベルの本が見つかる時」「生徒たちに本を読んであげている時」などの回答がありました。



2021年度の司書教師研修会の様子

(久我祐子)

Page Top ▲

2023-02-18 南アフリカ

### 山奥の小学校 カカメラ小に本と本棚を届ける



カカメラ小学校ショングワ先生と



カカメラ小学校に本と本棚の寄贈

新年度が始まった翌日の1月19日、昨年からの支援の約束をしていたカカメラ小学校に書籍と本棚を届けてきた。この学校もTAAAの支援対象学区であるドウエシューラ学区に所属するが、山間部のドウエシューラ小よりもっと遠隔地で（以前、プンガシェ地域で支援していた学校の近く）、生徒数も130名と小さい学校なので、選考時にN連（NGO連携無償資金協力）対象校から外れてしまった。ここにウマルシ小学校の司書教師だったショングワ先生が異動となり、サポートの依頼を受けた。N連対象校だったウマルシ小学校は、ショングワ先生の手腕もあって、図書委員会活動が精力的に行われ、読書好きの生徒を数多く生み出した。今でも活発に図書活動が行われている。

山奥にあるカカメラ小学校は生徒数のわりに校舎が大きく（以前は多くの生徒が通っていたと思われる）、図書室のスペースはあるが、古い教科書やリーダーなどがばらばらになって埃をかぶっており、倉庫のような状態だった。遠隔地域の学校でのリソース不足はあまりにもひどく、これまで

教育省は何をやってきたのかと憤りを感じると同時に、整理整頓をすれば今あるリソースでコーナー図書室でもできるはずなのに、“誰かが助けてくれるのを待っている”というような学校側の意識を残念にも思う。

もちろん、校長や教師、地域の人たちも図書館や図書室を利用した経験が少ないため、どこから始めたらいいのかわからないのだろう。今後もTAAAはこれまでの学校図書室活動支援の経験を活かして、少ないリソースでも図書活動ができることを多くの学校に伝え、読書の普及をしていきたいと思っている。

(TAAA南ア事務所 平林薫)

2023-01-10

## 「ぐりとぐら」そして「そらいろのたね」の現地語版製作作業

### － 2021年秋冬 日本語絵本への現地語ピース貼りのご報告－

9月29日にお亡くなりになった画家の山脇（大村）百合子さんが、実姉で保育士・作家の中川季枝子さんの物語に食べものとお料理に目がない野ネズミたちの大冒険の挿絵をあしらってロングセラーとなった「ぐりとぐら」（英語版と日本語版）が出たとき、3年生まではズール語で勉強する現地の子どもたちにも送る絵本の候補にあがりました。物語的にも、シェア文化が根付く地域社会で生きる現地の子どもたちにも共感を持って読んで貰えるのではないかという話になり、「ぐりとぐら」の寄付をよびかけ、その後同じくお二人の作品「そらいろのたね」等も届くようになったのでした。



まずは英語版を現地の方々含めて数人に現地語（ズール語）に訳していただき、当会の西村さんが各頁の日本語への貼りつけピース製作という大技仕事をしてくださり、その後、ボランティアの方々の協力も得て貼りつけ作業を続けて来たという経緯があります。低学年用の本を充実させたいという平林さんの意向も受けて、現在寄付頂いている分の貼りつけ作業は今年中に終わらせようという計画を立て、まずは11月3日にその1回目を実施しました。中央大学杉並高校からボランティアで参加して下さったお二人と当会の浅見さん、西村さん、大友の3人で、午前から作業をし、昼を挟んで4時半過ぎで、25冊の現地語版を作成しました。

残った本と貼りつけピースは、一部、西村さんと大友が自宅に持ち帰り作業を続け、それでも残った分を完成させるべく12月18日に今年最後の作業日を設定し、前回に引き続き、中央大学杉並高校のお二人にも参加頂き、貼りつけ作業の仕上げと2箱梱包（一箱16冊）を果たし、船便印刷物として郵便局に持ち込み、発送までこぎ着けました。うまくいけば3ヶ月で南ア現地に届く予定です。

(大友深雪)